

## 栗山町まちづくり懇談会 議事録

日時：令和4年11月6日（日）16：00～17：27

場所：南角田公民館

出席者：8人

### 1. 開会

### 2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

### 3. 懇談

- (1) 第7次総合計画の策定について
- (2) 自由懇談

### 4. その他

○空き家相談窓口チラシ参照

### 5. 閉会

《懇談内容》

#### 【自由懇談】

町民：地域経営の関係でふるさと納税制度の効果的な運用ということですが、予算が26億1千600万円だと思いますが、町では年間どのくらいプラスになっているのか。

副町長：26億1千600万円は8年間のトータル額になっていまして、現状では年間で3億くらいが寄付として入ってきています。その内返礼品については5割に抑えるという国からの指示があります。返礼品と送料、PRなどの宣伝費も含めて大体6割弱かかっています。実質町が寄付金で自由に使えるお金は4割強で1億2,000万円～1億3,000万円が事業に充当しているという現状です。

町民：畑地農基盤整備の促進をするということですが、1年間700万円で何をするのか。

町長：畑地農基盤整備と合わせて水田基盤整備を進めて行きますが、南角田・継立の水田基盤整備は終わりました、来年からは円山、御園、富士、北学田、雨煙別、鳩山、中里の7地区を整備いたします。水田の方は来年4月から町と農協と改良区と土地連からの職員を派遣してもらって総合土地改良区センターというものを作ることになりました、道庁の役割を少し担いながら一緒になって進めて行くこととなります。畑地農基盤整備の関係についても総合土地改良区センターの方で進めて行くことで話が進んでいます。こ

れから水田と同じように要望のとりまとめ、地元の期成会を設立して頂いて計画作りをするという水田と同じような仕組みのため、5,600万円の準備金しか入れていません。今後事業が決定して決まれば再度予算をつけるような仕組みになっています。

町民：栗山町の5年間単位の人口の減少率はどれくらいか。

町長：5年前は年間300人程度減少していましたが220人、180人、160人、170人と最近の減少幅は少なくなってきました。自然減については変わらず、高齢化率が高いため毎年7~80人亡くなり、生まれる方がどんどん少なくなって約40人~50人くらいで今年は特に少なく40人行くかというところです。転入・転出の社会減はほとんど変わらなくなってきました。これまでずっと積み上げてきた移住政策や子育て支援政策などが少しずつ認められていると感じています。今は生産年齢人口が高齢者人口を上回っていますが、10年後には逆転してしまうのですが、そうすると町の経済は大きく揺らぎ始めます。ですのでその前に何ができるかということを考えてやらなければならないと思っております。その一つとして生産年齢人口と高齢者人口の均衡を保つために生産年齢人口を維持させる対策を政策に練りこんでいます。働く方を増やすために働きやすい環境を作り労働力を保っていく努力をまずしていくことになっています。数年後を見越して打てる手を打っていきたいと思っております。

町民：電気自動車購入の際の助成制度はありますか。

副町長：今のところはありません

町長：今、地球温暖化の事務事業編というものがあります。役場内部の温暖化計画になっていまして目標の二酸化炭素排出量の削減を決めてやっています。なかなか目標には達成していなくて今後区域施策編という栗山町全体の温暖化計画を作ります。その中で町民と計画を作成する際に電気自動車購入の助成制度を設けるなどの施策も検討していきたいと考えております。

17:27 終了